

初めてのバレーボール観戦

文&写真

学生記者

高瀬杏菜 (法学部4年)

2016年5月31日。決戦の日を迎えた東京体育館に私はいた。

バレーボール男子のリオデジャネイロ五輪世界最終予選兼アジア予選。第3戦のポーランド戦が始まろうとしていた。

この日は中央大学バレー部のメンバーも応援に駆け付けていた。私にとっては偶然の出会いである。

中大部員は全日本のエース・石川祐希選手(20)のチームメート。ビックサーブが持ち味の柳田将洋選手(23)＝サントリー＝の弟、貴洋選手の姿もあった。

最終予選でリオ五輪の切符をつかむ条件は、(1)アジア4チームの最上位(2)その他7チームの上位3チームに入ることだ。アジア枠を競い合う中国に前戦・第2戦(5月29日)で、黒星を喫した日本はここで負けるわけにはいかなかった。

最終予選のバルーンを持った多くのファンが赤い

応援シャツを着て、NIPPONコールを連呼している。それを切り裂くように主審がホイッスルを鳴らした。

決戦開始。この日は先発メンバーに中大出身で2008年北京五輪代表の福澤達也選手(29)＝パナソニック＝も加わる。

日本の最初の得点は石川選手だ。会場が歓声に包まれる。

15得点を挙げるポーランドを4点差で追いかける場面で、うれしいサプライズがあった。セッターとして中大OBの関田誠大選手(22)＝パナソニック＝が起用された。石川選手、福澤選手とともに中大勢3選手がコート上で躍動している。

私がいた3階席からは、相手コートに鋭く突き刺さるボールがよく見える。男子のアタックはすさまじいスピードだ。テレビで見ても迫力があるが、や

バレーボール男子リオ五輪世界最終予選〈最終成績〉

順位	国名	勝	敗	勝ち点
1	ポーランド	6	1	15
2	イラン	6	1	15
3	フランス	5	2	15
4	カナダ	4	3	12
4位まで五輪出場決定				
5	豪州	3	4	10
6	中国	2	5	9
7	日本	2	5	6
8	ベネズエラ	0	7	2

(注) 順位は勝利数、勝ち点に順で決定。1、2位はセット率による。



試合前練習中の全日本チーム

はり生の音の迫力は圧倒的だ。応援にも力が入る。

第1、第2セットを接戦で落としてしまった日本。スーパープレーもたくさんあっただけに、応援席の声はこの日一番の大きさだ。

バルーンをたたく音も力強い。第3セットのテクニカルタイムアウト後は傳田亮太選手(24)＝豊田合成＝がコートに立つ。

関田選手の絶妙なワンハンドトスから傳田選手が得点を決める。この早くて繊細なプレーに、もはや目が追い付かない。これが世界のすごさなのか。

五輪出場を懸けた試合で3人の先輩と石川選手がプレーしている。こんなところで中大を意識することになるとは思いもよらなかった。

ところで、イタリアに武者修行に行くなど、世界で活躍する石川選手だが、こんなエピソードがある。昨年のワールドカップ(W杯)前に、あるバラエティ番組に全日本男子がゲストとして出演した。だが、あれほど人気のある石川選手の姿がない。すると、南部正司監督は「石川は大学の授業中です」と言った。驚いた。監督の発言に、バレーボールも学業も両

立させている石川選手を見て取った。中大の誇りだと本当に思う。

さて話を戻す。試合も終盤だ。拮抗した試合展開、16―14だ。次のプレーでチャレンジ(ビデオ判定)を要求した。地鳴りのような音とともに、祈るような視線が応援席から送られる。

チャレンジは成功した。得点は日本だ。いよいよ勝負はわからなくなってきた。見ているこちらにまで緊張が伝わってくる。高さのあるポーランドにわずかな差で負けてはしまったものの、すごいという思いが後に残った。必死で食らいつく姿、数々のスーパープレー、その全てが目には焼き付いている。試合後は余韻にしばらく浸っていた。

試合なので勝ち負けはもちろんある。しかし、もっと高い次元で私は感動した。こうして、初めてのバレーボール観戦は幕を下ろしたが、また近いうちに観に行こうと思っている。

中大には多彩な先輩がいることを改めて実感した1日だった。

— 電子書籍アプリ「白門書房」 —

『白門書房』は、中央大学が発行する広報誌を集めた、電子書籍配信アプリです。

『HAKUMON Chuo』のバックナンバーはもちろん、これまで印刷物のみで配布していた中央大学の大学案内誌や学部ガイドブック、大学院・専門職大学院案内、附属学校案内などを、電子ブックの形式でダウンロードできます。

利用方法は簡単。iOSの場合はApple Inc.が運営するApp Store(アップストア)から、Androidの場合はGoogle Inc.が運営するGoogle Playから無料でダウンロードできます。App StoreおよびGoogle Playへは、無線LAN(Wi-Fi)を通じてどこからでもダウンロードできます。

『白門書房』ダウンロード後は、インターネットへの接続環境がなくても、電子ブックを開くことができます。

過去のバックナンバーや他の媒体を読みたい場合は、4GやWi-Fiを通じて何冊でもダウンロード可能です。

本電子書籍・ドキュメント配信システムは、2016年3月現在、99冊の大学広報誌を用意しており、今後も、新刊本発刊次第、順次電子ブックで提供する予定です。

『白門書房』アプリについての詳細は、以下のサイトよりご覧いただけます。

【iOS版】

<http://itunes.apple.com/jp/app/id413465097>

【Android版】

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.documentcontainer.web>

※Android4.0未満の機種ではご覧いただけませんので、ご注意ください。

iOS版ニューススタンド(2015年リリース)

※定期刊行物である『HAKUMON Chuo』、『中央大学の近況』についてのみ、こちらでご覧いただけます。